



ひかりのこ

2021年度 **9月号**

日本キリスト教団
名古屋新生教会 教会学校だより
 名古屋市西区天神山3-7 TEL.052-531-1820
 HP: <http://nagoya-shinsei.church/>

教会学校礼拝・こどもれいはい お休みのお知らせ

全国的な新型コロナ感染拡大の情勢により、愛知県でも「緊急事態宣言」が再発令されました。これを受けて、8月29日(日)～9月12日(日)までの教会学校礼拝・こどもれいはい・分級を休止します(大人の礼拝も同様)。休止期間は状況により延長することもあります。その際にはまたお手紙でご連絡します。

新型コロナ情勢の一日も早い収束と、みなさまの体と心の健康をお祈りしています。そして、また教会で会えることを楽しみにしています。暑さにも負けず、元気に過ごしてください。

今月の礼拝 単元14: 士師の時代(ヨシュアの後の古代イスラエル)

月日	週 題	聖書箇所	教会学校礼拝 (小5～中高生) 9:00～9:30	分級Ⅰ(小1～小4) 分級Ⅱ(小5～中高生) 9:35～9:55	こどもれいはい (幼児～小4) 10:00～10:20
8月29日	ギデオンの召命	士師記 6章	教会に集まったの 教会学校礼拝・こどもれいはい・分級は お休みです。(大人の礼拝も休止)		
9月5日	ギデオンの戦い	士師記 7章			
9月12日	サムソン	士師記 13-16章			
9月19日	ルツの信仰	ルツ記 1章	林 小夜子	分級は 当面の間、 お休みします。	武岡 基
9月26日	祝福を受けたルツ	ルツ記 2-4章	安達正樹牧師		安達正樹牧師

振起日 あまり馴染みがないかもしれませんが「振起」とは「奮い立つこと。奮い起こすこと。」という意味です。教会的には「再びしっかりと信仰を持つ」「神さまに立ち返る」とでも言いましょうか。教会学校のみなさんにはちょっと難しいかもしれませんが、「神さまのことを思い起こす」「神さまの御声に耳を傾ける」と言い換えましょう。教会の伝統の中で9月の第1日曜日を「振起日」「決心日」と定めているところもあります。これから秋、そしてクリスマスへと向かっていきます。教会の歩みもしっかり続けていきましょう。



今月の聖句

忠実な人は多くの祝福を受ける。

(箴言 28:20)

今月のさんびか♪

こどもさんびか 27 (キリエ・エレイソン)



教会学校の礼拝では8月末から11月にかけて旧約聖書の中から、ギデオン、ルツ、サムエル、サウル、ダビデといった信仰深い人物について学んでいきます。「信仰深い人」とはどんな人を思い浮かべますか? 「優秀な人」「何でもできる人」「ブれない人」…いろいろな想像ができるのではないのでしょうか。聖書に登場する「信仰深い人」は確かに、優秀で、何でもできて、ブれない人のように見えます。しかし、その反面で「神さま、祈りを聞いてください」「主よ、あわれんでください」と、神さまに依り頼む人でもあります。そう思うと、強い心を持っているわけではありません。優秀で何でもできるように見えるのも、その人自身の力ではなく、神さまの力があってこそその結果でもあるのです。今月の聖句は箴言から選びました。箴言はソロモンを初め、多くの賢人による格言とも言われます。それらの人物については礼拝では直接触れませんが、多くの賢人たちがまた神さまへの信仰を大切にしていました。

教会での礼拝がまたしばらく休止になるため、今月のさんびかは以前(2020年2月)に今月のさんびかとした「キリエ・エレイソン」としました。「キリエ・エレイソン」とは、ギリシア語で「主よ、あわれんでください」という意味を持ちます。新約聖書では、二人の盲人が(マタイ9:27)、娘が悪霊に苦しめられているカナンのが(マタイ15:22)、盲人の物乞いバルティマイが(マルコ10:47)、重い皮膚病を患っている十人が(ルカ17:13)、それぞれイエスさまに向かって声を上げた「主よ、あわれんでください」の叫びの言葉です。

この言葉は「マラナ・タ」と並んで、古くから礼拝の中で用いられてきました。3世紀には、シリアのアンティオキア(アンテオケ)でリタニー(連禱、交禱)の応答句として用いられるようになり、その後、東方教会の典礼全体でも用いられるようになりました。現在もっとも一般的に用いられているクリュソストモス典礼でも、リタニーの応答句とされています。西方教会にも取り入れられましたが、後にリタニーの祈りの言葉は使われなくなり、「キリエ・エレイソン」だけが残りました。そして、三位一体の神への祈りとして3回繰り返されるようになり、2回目をキリストへの祈りとして「クリステ・エレイソン」と唱えるようになりました。現在では、元来の使い方のように、再び、リタニーの応答句として、とりなしの祈り、嘆願の祈りなどに用いられるようになっています。

ウクライナの民謡に基づくこの曲は、1983年の世界教会協議会(WCC)第6回ヴァンクーバー大会で用いられ、その後多くの賛美歌集に収められるようになりました。

簡単で歌いやすいメロディーですので、「♪キリエエレイソン…」のギリシア語の歌詞と、「♪しゅよあわれみを…」の日本語訳の歌詞を続けて2回歌ってみましょう。

キリエ・エレイソン 27 (32)

▶ 礼拝 応答唱
 曲: ウクライナ民謡
 ♪=88

がたんじょうびおめでとう🎂

9月生まれのお友だち

教会学校礼拝・こどもれいはいは休止しますが、今回も礼拝予定の聖書箇所についての物語を載せます。ぜひお読みください。

8月29日(日) ◇週題：ギデオンの召命 ◇聖書：士師記 6章



意地悪なミディアン人 「たいへんだ、ミディアン人が来たぞ。隠れる！」イスラエル人のお父さんやお母さんは子どもたちを連れて、山の洞窟に隠れました。畑を耕して種をまいても、乱暴なミディアン人がやってきて、麦や野菜を取っていきまうのです。大切な家畜まで連れていかれます。イスラエルの人たちはこれまで何度も神さまに助けていただいたのに、本当の神さまを忘れて、偽物の神さまを拜んで、叱られることを繰り返していました。ミディアン人に苦しめられた人たちはやっと神さまのことを思い出して、叫びました。「神さま、私たちを助けてください！」

ギデオンと御使い 木の近くにあるブドウの踏み場で、トントンと音がします。本当なら収穫したブドウを踏んでブドウ酒を作るはずの場所で、隠れるように麦を打っていたのは、ギデオンという若者です。「ミディアン人が来たら、すぐ逃げなくちゃ」とビクビクしながら働いていました。



そこに突然、神さまの使いが現れました。「力ある勇士よ。神さまがあなたと一緒におられます。」ギデオンはびっくりして、言いました。「もし神さまと一緒にいてくださるのなら、どうしてミディアン人に苦しめられているのですか。私たちは神さまに見捨てられたのではないですか？」すると御使いは言いました。「あなたがみんなをミディアン人から救うのです。神さまがあなたを遣わすのですよ。」

ますます驚いたギデオンは首を振りました。「無理です。私はまだ若いし、そんな力はありません」。しかし御使いは、「心配しなくて大丈夫です。神さまがあなたと一緒におられます。」と言いました。

信じられないギデオンは、御使いにお願いしました。「では、神さまが私と一緒にいてくださるという証を見せてください」。ギデオンは家から肉料理とパンを持ってきて、岩の上に置きました。御使いは手に持っていた杖の先で肉とパンに触れました。すると、ポツと岩から火が燃え上がり、肉とパンを焼き尽くしました。「この人は本当に神さまの使いだ。神さまがぼくを選んでくださったのだ」。御使いの言葉を信じ、神さまを信じたギデオンの心に勇気が湧いてきました。



力を注がれるギデオン 神さまに力を注がれたギデオンが、ブオーツと角笛を吹き鳴らすと、大勢の味方が集まってきました。イスラエル人の叫びを聞いた神さまは、ギデオンを選んでイスラエルを救うことになされたのです。

9月5日(日) ◇週題：ギデオンの戦い ◇聖書：士師記 7章

兵隊が多すぎる 戦いのときが近づいていました。ミディアン人の軍隊が、向こうの野原にテントを張って待ち構えています。数えきれないくらい大勢の兵隊がいるのが見えます。ギデオンのもとに集まった兵隊は3万2千人でした。「ミディアンの兵隊に比べたら、全然少ないな」とギデオンは思っていました。



ところが、神さまはこうおっしゃいました。「あなたと一緒にいる兵隊は多すぎる。自分たちの力で勝ったと自慢しないために、兵隊の数を減らさない」。ギデオンは驚きました。しかし、「『戦うのが怖い』と思っている者は、家に帰りなさい。」とみんなに言いました。すると、2万2千人が帰ってしまいました。残った兵隊は1万人です。

それでも神さまは、「まだ多すぎる」とおっしゃいました。そこで、ギデオンは兵隊を水辺に連れていきました。「ああ、喉がからだったんだ」。みんな喜んで水を飲み始めました。膝について夢中になって飲む人もいれば、辺りを警戒しながら、さっと手ですくって飲む人もいました。ギデオンは、「手で水をすくって飲んだ人だけ残りなさい。他の人は帰りなさい。」と言いました。残ったのはたった300人でした。



主のため、ギデオンのため 「これだけの数で勝てるのかな」とギデオンは心配になりました。けれども、「あなたに勝利を与える」という神さまの約束を信じました。ギデオンは、300人の兵隊を3つのグループに分けました。そして、全員に角笛と、たいまつの入った壺を持たせて、言いました。「私が角笛を吹いたら、みんなで角笛を吹き鳴らさない。そして『主のため、ギデオンのため』と叫びなさい」。これが神さまが教えてくださった戦いの作戦でした。



夜になり辺りは真っ暗になりました。ギデオンたちはそとミディアン軍のテントに近づいていきました。ミディアン人たちはぐっすり眠っています。ブオーツ！ギデオンが角笛を吹くと、300人の兵隊も一斉にブオーツ！と角笛を吹き鳴らしました。持っていた壺をガチャン！と割って、炎のついた明るたいまつを握って、「主のため、ギデオンのための剣！」と叫びました。突然の騒動に驚いて飛び起きたミディアン人たちは、何が起きたかわかりませんでした。暗闇の中、ミディアン人同士で戦い始め、やがて逃げだしました。人数が多ければ勝てるというのではなく、神さまが示された方法を信じ、従ったことでギデオンたちはミディアン人を追い払うことができたのでした。



9月12日(日) ◇週題：サムソン ◇聖書：士師記13章~16章

サムソンの生まれ イスラエルにマノアという人がいました。子どもが与えられず、奥さんと暮らしていました。ある日のことです。神さまの使いが現れて、奥さんに言いました。「あなたは男の子を産みます。その子はおなかの中にいる時から神さまにささげられた子どもです。神さまの働きをするので、決してその子の髪を切ってはけません。イスラエルを助ける人になるのです」。

しばらくして元気な男の子が生まれました。名前はサムソンと名付けられました。神さまの祝福を受けて、すくすく育ちました。やがて大人になったサムソンは、信じられないほどの力持ちになりました。町の門を柱ごと引っこ抜いて、軽々と担いでしまうほどでした。この怪力で、イスラエルに攻めてくるペリシテ人を追い払いました。サムソンのお陰でイスラエルの人々は安心して暮らしていました。



サムソンとデリラ ペリシテ人たちは、何とかしてサムソンを倒したいと思いました。そこで、デリラという女の人のところへ行きました。サムソンは、このデリラが大好きだったので。「サムソンの力の秘密を聞き出してくれ。うまくいったら、褒美を与えよう」。



デリラはサムソンに聞きました。「ねえ、サムソン。どうしてそんなに力持ちな。あなたの力を弱くするには、どうしたらいいの？」でもサムソンは、本当のことを教えませんでした。サムソンの力は神さまからいただいているものなので、その秘密を他の人に教えるわけにはいかなかったの

です。デリラは諦めずに、「なぜ教えてくれないの。私のことが好きではないのね！」としつこく頼みました。とうとうサムソンは言いました。「私は神さまとの約束で髪を切ったことがない。髪を切られたら力をなくしてしまうのだ」。デリラは、サムソンが眠ったときに、人を呼んで髪を切らせました。目を覚ましたサムソンは、敵と戦おうとしたのですが、力が出ません。神さまの力が離れてしまったからです。力を失ったサムソンはペリシテ人に捕まって、連れて行かれました。



力が戻ったサムソン 「これがあの怪力サムソンか。惨めなものだな。」鎖でつながれ、目も見えなくなったサムソンをばかにしてペリシテ人たちは笑いました。時がたつうちに、切られたサムソンの髪はまた少しずつ伸びてきました。ペリシテ人の神殿で見せ物にされていたサムソンは心から祈りました。「神さま。約束を守らなくて、ごめんなさい。どうか、もう一度だけ私に力を与えてください」。そして、両手で神殿の柱を力いっぱいグイッと押しました。すると石の柱が折れて、神殿はガラガラッと崩れました。そこにいたペリシテ人はみな倒されました。神さまを信じる心を取り戻したサムソンを神さまはあわれんで、もう一度力をお与えくださったのでした。

